

## 郷土資料館だより

Vol. 25, No. 1

2002.11.15

## 近代の三島を伝える 花鳥家文書



極東煉乳 三島工場 (三島市南二日町)



煉乳缶詰のラベル (金線ミルク)



工場跡現在地の市営アパートと花鳥兵右衛門人物碑



旧約聖書 エレミア記 明治17年刊

郷土資料館では、三島の近代史を伝える貴重な資料として、三島の産業・教育・文化に大きな影響を与えた花鳥兵右衛門関係資料を中心とした花鳥家文書を購入しました。

花鳥兵右衛門は、竹林寺小路(市役所の北側、桜川沿い)の酒造業の家に弘化3年(1846)に生まれ、文久3年(1863)には農兵調練の小隊長として活躍、明治12年(1879)に家業を継ぎます。その後明治19年(1886)に兵右衛門は一家七人とともにキリスト教に改宗し、酒造業を廃業して、牧畜業(搾乳と販売)を始めます。

兵右衛門の名を高めたひとつは「<sup>ばら</sup>薔薇女学校」の創設です。明治21年(1888)使用しなくなった酒蔵を改装し、アメリカから招いた教育者リゼー・バラ女史のもと25名の女子学生にキリスト教主義の教育を施しました。三島に欧米文化をもたらし、さまざまな啓蒙的役割を果たした、当時としては画期的な女子教育でした。しかし、翌22年に東海道線(御殿場経由)が開通しましたが、駅から遠い旧三島宿は、旅籠の廃業など打撃を受けました。

この影響を受け、「薔薇女学校」の経営が行きづまり、明治25年(1892)に残念ながら廃校となってしまいました。

また兵右衛門は、生乳の練乳(煉乳・コンデンスミルク)製法の研究を始め、アメリカから真空鍋を購入し、養子徹吉と共に新式練乳製法に成功します。この後、伊豆の牛種改良・畜産の奨励に努め、田方郡畜産牛組合を創立し、北海道よりホルスタイン種を購入するなど、地域の乳業発展につとめました。大正6年(1917)には「極東煉乳株」を起し、工場を才塚(現在の南二日町市営アパート)に移します。ここで製造されたアイスクリームは、東京のデパートの食堂を賑わし、練乳は海軍を始め、全国に出荷されました。

この他、三島銀行を明治27年(1894)に創設し頭取として活躍するほか、伊豆箱根鉄道の前身となる伊豆鉄道株式会社を設立しました。

郷土資料館では、今後花鳥家文書の整理と調査を進め、花鳥兵右衛門とその関連の詳しい実績をまとめていく予定です。

## 小学生の体験講座

### 【郷土教室】

#### 第1回 「染物を体験しよう」

平成14年7月13日(土)

講師 高林保巨氏  
(遠州屋染物店店主)

参加者 市内小学4～6年生22人

最初に講師より染物についての説明を受けた後、藍染めに使用する布が各人に配布され、それぞれ順番に第1回目の藍染めを行いました。染めた人から干して乾燥。全員が一巡してから、2回目の藍染めを行い、乾燥させている間に絞り染めの下

準備です。さらしを棒状にし、糸できつく縛ったものを熱湯につけ、熱湯から取り出した後脱水し、染料に浸します。染料から取り出した後、水ですすぎ、糸を解いて乾燥。続いて藍染めについても水ですすぎ洗いを行いました。そして両方とも乾燥させて完成です。

当日は小雨交じりの天候で、残念ながら予定していた型染めが出来ませんでしたが、参加者にとっては貴重な体験ができたようです。

藍染めの様子 ▶



完成した絞り染め ◀

#### 第2回 「機織りを体験しよう」

平成14年7月31日(休)

講師 熊井恵子氏  
(工房トゥラーム)

参加者 小学4～6年生13人

郷土教室第2回は、昔ながらの機織りを実際に体験してみようということで開催されました。

当日は楽寿園駅前口に集合し、市マイクロバスに乗って会場の富士市立博物館歴史民俗資料館へ

移動。最初に講師から機織り機の使い方についての説明を受けた後、全体が2班に分かれ、3人ずつで交互に機織りを行いました。また、待ち時間の間に歴史民俗資料館内を見学。最後に講師より講評があり、機織り体験は終了。昼食をとった後、富士市立博物館本館を見学し、職員の方から展示についての説明を受けました。

見学後は、再び市マイクロバスで移動、楽寿園に到着し無事解散となりました。

講師の手ほどきを受ける様子 ▶



機織りの様子 ◀

## 縄文土器作り教室

酷暑といわれた夏でしたが、毎年開講している縄文土器作りを今年も実施しました。

市内の小学生14人それぞれが、思い思いの形に土器を作り、個性豊かな土器づくりに挑戦しました。

一日目7月24日(水)午前中は「土練り」です。赤土・粘土・砂に水を混ぜ、約2時間かけて練りあげました。汗を拭きながらの半日でした。

午後は「成形」です。午前中練った粘土を使っ



成形の様子

て円板状の底を作り、底の上に粘土を積み上げ、よく乾燥させます。

二日目8月7日(水)は「焼成」です。今回は会場を坂公民館に移して行われました。縦3m×横2m位の炉を作りカラ炊きし、オキを作ります。この中に、土器を入れ、約1時間野焼きをします。火がすっかり落ち十分焼かれた土器が赤銅色になったら、自分だけの縄文土器の完成です。

また、野焼きの待ち時間を利用して勾玉作りを行いました。



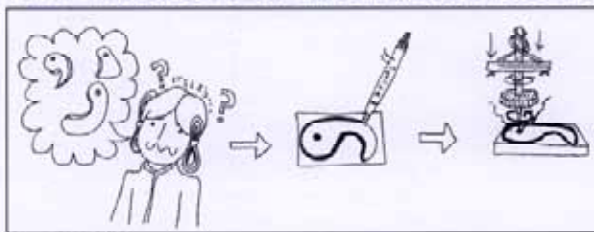
野焼き

## 勾玉まがたま作りたまに挑戦しよう!!

今回の縄文土器作り教室では「勾玉作り」を行いました。簡単な作り方を以下に掲載しますので、ご家庭で挑戦してみたいかがでしょうか。

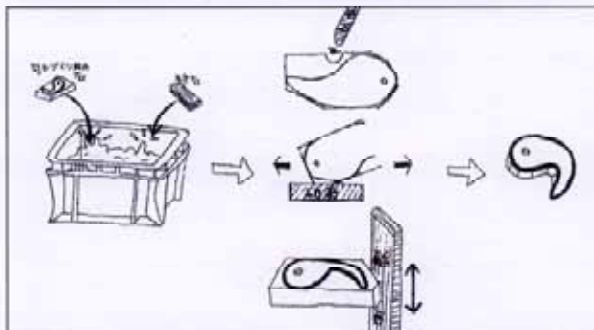
### 勾玉とは？

旧石器時代の終わり頃から、奈良時代の初めにかけて作られたもので、おもにネックレスやブレスレットとして利用されていました。勾玉には、いろいろな形をしたものがあり、その材料もヒスイやメノウといったきれいな石や、加工しやすい滑石などが用いられていました。この他にも、色とりどりのガラスでつくられた勾玉などが数多く見つかっています。



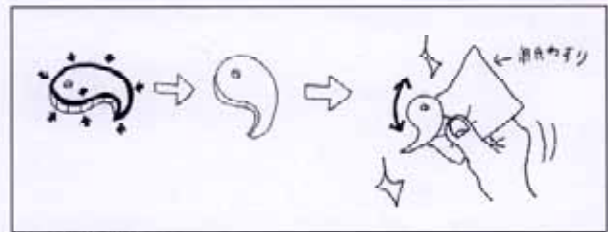
#### 1. デザイン

勾玉作り用の石に鉛筆でデザインを下書きし、油性ペンでなぞります。次に、ひもを通す孔の位置を決め、鋸で孔をあけます。削る部分は少ない方が簡単です。



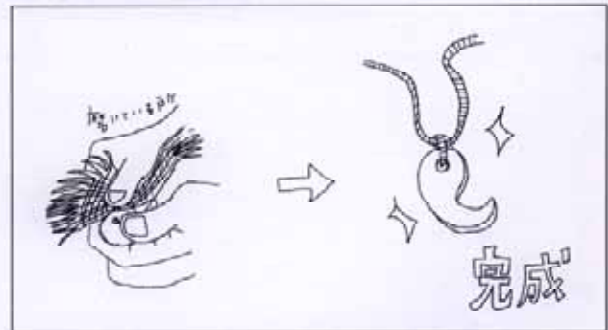
#### 2. おおまかに形を削り出す

水を入れた容器を用意し、線に沿って砥石で形を削りだします。くぼんだ部分などは、砥石の丸い方の角を使うと上手に削れます。



#### 3. 丸みをだす

勾玉の形にした石の角を、砥石を使って丸くします。その後、紙ヤスリで磨きます。紙ヤスリは、粗いものから順に使っていきます。



#### 4. 磨く

勾玉が光るように、布で磨いて仕上げます。勾玉を十分に磨いたら、ひもを通してできあがり!

※ この図は、博物館実習生が作成したものに、一部加筆・修正を加えました。

## 平成13年度活動報告

区分	事業名	内容	実施日	入館者 または 参加者	講師・備考
企画 展示	(東海道400年祭事業) 「三島宿」	江戸時代、東海道の宿場の中でも特ににぎやかで有名だった三島宿の様子を各種資料を通して紹介した。	3月18日(日)～ 5月27日(日)	18,782名	図録作成
	3市博物館共同企画展 「水といきる 水にあそぶ」	人々の生活に欠かせない水。水をめぐる道具類と水への信仰を紹介する。三島の湧水の昔と現状を探った。	7月8日(日)～ 9月2日(日)	3,824名	3市共同開催 パンフレット作成
	(東海道400年祭事業) (東海道ルネッサンス) 三島・箱根・小田原合同企画 「箱根八里」展	三島宿～小田原宿までの東海道「箱根八里」、その道の変遷、松並木・一里塚・石畳・間の宿等の史跡を、最新の発掘調査の成果をふまえて紹介した。	10月27日(土)～ 12月16日(日)	6,696名	3市町共同開催 図録作成
教育 普及 活動	縄文土器作り(3回)	縄文土器作りをとおして古代の生活に対する理解を深める体験教室	(1) 7月25日(日) (2) 7月27日(金) (3) 8月24日(金)	21名	
	夏の郷土学習(野外学習)	「水の散歩道」	8月1日(水)	8名	佐伯 忠夫 氏
	郷土教室(体験教室)	手作りおもちゃ「水で遊ぼう」	7月14日(土)	7名	瀬川 到 氏
		古代の生活を体験しよう	11月10日(土)	23名	辻 真人 氏
		昔の道具を使ってみよう	12月8日(土)	11名	鈴木 辰己 氏
	ふるさと講座	三島宿を歩く	5月24日(水)	36名	迫田 信行 氏
		宿場歩き(岡部～蒲原宿)	10月11日(水)	33名	迫田 信行 氏
ワク!ワク!宿場めぐり-小田原 ワク!ワク!宿場めぐり-箱根		11月6日(火) 11月12日(月)	34名 20名	小田原市郷土文化館 箱根町立郷土資料館	
郷土資料館講座 「箱根八里と箱根関所」	企画展「箱根八里」展関連講演会	10月30日(火)	65名	加藤 利之 氏	
出版 活動	「郷土資料館だより」の発行	郷土資料館広報及び活動報告など	年 3 回	各1,500部	無料配布
	企画展関連出版	パンフレット 「水といきる 水にあそぶ」		1,500部	無料配布
		「東海道 箱根八里地図」		2,000部	頒布価格 200円
		「箱根八里」図録		1,500部	頒布価格 600円
古文書研究	「三島宿本陣史料集(14)」		300部	頒布価格 1,300円	

## 文化と生活のお宝探訪 — 収 蔵 品 展 —

■平成14年4月27日～11月9日  
三島市郷土資料館 1階展示室

この企画展では、資料館に寄贈された資料のうち、紹介される機会が少ない収蔵資料を公開しました。

ここに紹介する資料は、宝塚歌劇団公演のチケット半券・絵葉書・プロマイドなどです。もとの所蔵者は、東京で育ち戦時中三島に疎開し、そのまま当地に留まりました。東京に在住中、しばしば東京宝塚劇場を訪れたようです。

宝塚歌劇団は、現在でも女性を中心にあこがれている華やかな夢の世界ですが、この資料から昭和10年代には、世界の情勢と戦時体制への時代の波に逆らうことはできなかったことが表れています。

現在資料にある女優たちについては調査中ですが、お判りになる方はぜひご一報いただきたいと思います。



東京宝塚公演の資料（昭和9～15年、1934-40）



米仏への憧れの時代、紀元2600年祭、海軍などを表しているチケットや絵はがき



華やかな女優たちのプロマイド、絵はがき、雑誌の切り抜き

## 石は語る — 祈りと想い —

■平成14年11月17日(日)～平成15年2月23日(日)  
三島市郷土資料館 1階展示室にて

本年の三島・沼津・富士市の3市博物館による共同企画展では、「石は語る—祈りと想い」というテーマで、主に民間信仰の対象となる石造物を取り上げます。

今でも路傍にたたずむ石造物には、サイノカミをはじめとする石仏、石塔、供養塔など様々な種類のものがあります。これらには、寺社での崇拝とは異なり、農民・庶民の日常的な暮らしを支える精神的なよりどころでした。とくに江戸時代になると、庶民の間に観音や地藏への信仰が大衆的に盛んになり、多種類の石仏が造られました。

今回の展示では、「道祖神（サイノカミ）、庚申塔」を中心に、三島・沼津・富士市内の石仏とその素朴な祈りと想いについて紹介します。



庚申塔（谷田）



唯念碑などの石仏（沢地）



ドンドン焼きで祭られるサイノカミ（伊豆佐野）

## 新収蔵資料

平成14年1月から4月の間に、郷土資料館に次の方からご寄贈いただきました。  
ご協力ありがとうございました。

(敬称略)

青木 隆俊 三島市緑町  
ハヤビン 1点

伊澤ヨシエ 三島市谷田  
サイノカミ(模造) 5点  
電気扇風機 1点

和泉 彰 三島市西本町  
落雁型 10点  
茶菓子用落雁型 48点  
羊羹フネ 3点  
あめきり 1点  
押し型 6点  
まきせん 3点  
みそせん 6点



菓子道具資料

のりせん 10点  
焼き印 23点  
へら 2点  
温泉馒头印型 8点  
大判焼き型 3点  
その他 77点

上田伊兵衛 三島市東本町  
蠅取り器 2点  
コンペイ糖用具 1点

勝又 光夫 三島市元山中  
職立台座 1点

小早川万寿夫 三島市大社町  
酒樽 1点  
土蔵模型 1点



下里 次郎 三島市沢地  
井戸ポンプ 1点

関川 良之 三島市西若町  
自在鉤 1点  
銅壺 1点  
タバコ盆 1点  
その他 8点

原井 慈鳳 沼津市青野  
浄瑠璃本『三嶋お仙』1点

樋口 正智 三島市南本町  
樋口本陣文書 69点  
明治版画 40点  
本陣調度品 2点  
その他 91点

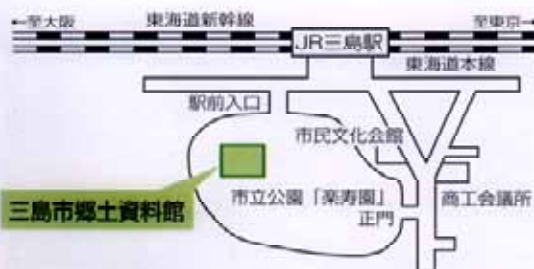


かご職道具資料(西小学校に展示中)

松本籠店 三島市西本町  
編み組型 4点  
ゴミ箱型 1点  
かご型 2点  
弦鋸 1点  
くすだま型 14点  
へ編目型 2点  
編目型 5点  
竹割具 22点  
竹割包丁 2点  
のみ 1点  
セ 1点  
炭入れ 5点  
その他 31点  
以上

## 利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、  
12月27日～1月2日)  
開館時間 午前9時～午後5時(4/1～10/31まで)  
入場無料(但し、楽寿園入場の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

## 郷土資料館だより VoL.25 No1(第73号)

発行日 平成14年(2002)11月15日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036 三島市一番町19-3  
楽寿園内

TEL 055-971-8228

FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会